

November 16, 2020

【前日の為替概況】ドル円、続落 弱い米経済指標が調整売りを後押し

13日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は104.63円と前営業日NY終値(105.13円)と比べて50銭程度のドル安水準だった。10月米卸売物価指数(PPI)は予想を上回ったものの、食品とエネルギーを除くコア指数が予想を下回ったため円買い・ドル売りが先行。10日の安値104.82円を下抜けると目先のストップロスを断続的に巻き込んだ。11月米消費者態度指数(ミシガン大調べ)速報値が予想より弱い内容となったことも相場の重しとなり、一時104.56円と日通し安値を付けた。週末を控えたポジション調整目的の売りも出た。

なお、米メディアが報じたところによると「米大統領選で勝敗が判明していなかったジョージア州では民主党のバイデン前副大統領が、ノースカロライナ州ではトランプ大統領が勝利を確実にした」もよう。全50州と首都ワシントンの勝者が決まり、全米538人の選挙人中、バイデン氏が306人、トランプ氏が232人を獲得したことになる。

ユーロドルは続伸。終値は1.1834ドルと前営業日NY終値(1.1806ドル)と比べて0.0028ドル程度のユーロ高水準だった。ポンドドルの上昇につれたユーロ買い・ドル売りが入ったほか、米国株相場の上昇に伴うリスク・オンのドル売りが出た。6時30分前に一時1.1837ドルと日通し高値を更新した。

ユーロ円は4日続落。終値は123.85円と前営業日NY終値(124.12円)と比べて27銭程度のユーロ安水準だった。欧州市場ではユーロドルの上昇につれた買いが入り一時124.30円と本日高値を付けたものの、NY市場ではドル円の下落につれた売りが優勢となり1時前に一時123.66円と本日安値を付けた。

ポンドは堅調だった。ジョンソン英首相の上級顧問であるドミニク・カミングス氏が年末までに退任する見通しと伝わったことで、市場では「対欧州連合(EU)強硬派であるカミングス氏が辞任すれば、英国のEUに対する姿勢が軟化し、交渉妥結に近づくのではないかと」の期待が高まりポンド買い戻しを誘った。ポンドドルは一時1.3201ドル、ポンド円は138.51円、ユーロポンドは0.8964ポンドまでポンド高に振れた。

【本日の東京為替見通し】今週はウイルス感染第2波拡大に警戒、RCEP・英政権も注目

本日のドル円はもみ合いになるか。先週末はダウ平均が9カ月ぶりの高値をつけ、S&P500は史上最高値を更新した。しかし堅調な株価の値動きにも関わらず、円売りの反応は鈍かった。先週の為替市場の値動きを見ていると、株式市場に連れることが徐々に少なくなってきていることで、アジア市場で株価が買われた場合でも円売りに市場が動くのは難しいかもしれない。ただし、週末に包括的経済連携(RCEP)協定に日本を含め15カ国が署名したことなどが、どの程度株式市場を支え、金融市場に影響を与えるかを見定める必要があるようだ。

本日の経済指標では本邦の7-9月期実質国内総生産(GDP)速報値が発表されるが、本邦の経済指標で市場を動意づけることは難しいだろう。

米国に関しては、政治の混迷と新型コロナウイルス感染拡大に注目が集まる。政治面では週末バイデン氏が306人の選挙人を獲得することがほぼ確定した。トランプ政権は先週も相次いで選挙の不正や集計の違法があったという訴えについて敗訴している(もしくは訴訟すら受け付けられていない)。しかしながら、週末にトランプ氏支持者がワシントンDCで大規模デモを行うなど、一部の熱狂的な支持者が後押ししていることでトランプ氏が負けを認めることは難しいだろう。敗北を認めないことの問題のひとつは、国家機密などの引継ぎブリーフィングが大幅に遅れることだ。カーター氏からレーガン氏に政権が移った時は、政権が変わった1月20日にイランが大使館の人質を解放した例がある。次期政権は政権が始まる前から外交なども裏から動くことになるのだが、政権移行が遅れる場合はこのようなことを行うことができない。より遅くなればなるほど米国の国防が脆弱になり、トランプ政権で国土安全保障長官だったケリー氏は「米国に致命的になる」とも発言している。また、先週だけでトランプ氏の意向に従わなかった国防省、国土安全保障省などの高官が次々と辞めさせられていることも大きな問題になることだろう。

米国の新型コロナウイルスの感染第2波についても非常に危機的な状況になっている。トランプ大統領は週末に「新たなロックダウンを行うことは現政権ではない」と発言しているが、この数週間で大統領がウイルス感染抑制や医療関係の援助、経済支援などを全く行おうとしていない。そればかりか、クオモNY知事がワクチンの安全面を考えて、性急な認可を疑問視していることに対して、トランプ氏は「ワク

チンができてNYには配布しない」などと発言する始末である。大統領が政治だけでなく、ウイルス対策でも前に進もうとしないことは米国の今後大きな重荷となり、金融市場にも多大な影響を及ぼすことになりそうだ。

欧州の動きも市場を大きく動かすことになりそうだ。週末にオーストリアでロックダウンの規模が拡大された。他の多くの欧州国もウイルス感染第2波がより深刻になっている。今後の欧州中央銀行（ECB）のパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）や長期資金供給オペ（TLTRO）などにも関わってくることで、欧州のウイルスの進行状況には目を配りたい。

また、英国はウイルス感染も深刻な状況だが、ジョンソン政権も同様に危機に瀕している。先週、12月中旬まで現職に留まるとはされているがケイン広報担当、カミングス上級顧問のジョンソン首相が政権から離れることが決定している。すでに13日からジョンソン首相がロンドン市長だったときの側近でもあるリスター氏が上級顧問を担当しているが、この決定が英国と欧州連合（EU）の通商交渉にどのような影響を及ぼすかを見極めなければならない。ジョンソン政権がレームダック化することになればポンドにとっては売り材料だが、通商交渉の妥協はポンド買い材料になることで今週も神経質な動きになりそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ☆ 7-9月期実質国内総生産（GDP）速報値（予想：前期比4.4%／前期比年率18.9%）
- 13:00 ◇ 政井貴子日銀審議委員、あいさつ
- 13:30 ◇ 9月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 9月設備稼働率

<海外>

- 09:01 ◇ 11月ライトムーブ英住宅価格
- 11:00 ◎ 10月中国鉱工業生産（予想：前年比6.7%）
- 11:00 ◎ 10月中国小売売上高（予想：前年比5.0%）
- 17:40 ◎ ロウ豪準備銀行（RBA）総裁、講演
- 18:00 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演
- 18:40 ◎ センテノ・ポルトガル中銀総裁、講演
- 22:00 ◎ ラガルドECB総裁、講演
- 22:30 ◇ 9月カナダ製造業出荷
- 22:30 ◎ 11月米ニューヨーク連銀製造業景気指数（予想：13.9）
- 22:30 ◎ メルシュECB専務理事、講演
- 17日 02:30 ◎ ハスケル英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 17日 04:00 ◎ クラリダ米連邦準備理事会（FRB）副議長、講演
- インド（ディワリ）、メキシコ（革命記念日）、休場

17日

- 09:30 ◎ 11月RBA理事会議事要旨

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

13日 10:11 ゲオルギエバ国際通貨基金(IMF)専務理事

「継続的な確固たる政策で経済回復への道を補強すべき」

「財政・金融支援を早めに撤回してはならない」

13日 11:26 楼繼偉・元中国財務相

「バイデン氏が新大統領になったとしても、貿易摩擦は必ずしも緩和されるとは限らない」

13日 18:18 シュナーベル欧州中央銀行(ECB)専務理事

「資産買い入れの強度やペースを議論しなければいけない」

「金融政策だけではできない、財政政策も必要」

「あらゆる措置を検討している」

「過去に金利を下げなかったのには理由があるが、その理由をもう一度見直さなければならない」

13日 19:00 デコス・スペイン中銀総裁

「12月に発表されるマクロ経済見通しは下方修正される可能性」

「インフレ率は今後の四半期に予想を下回る可能性」

「ワクチンニュースはポジティブだが、経済活動にプラスの影響を与えるには時間がかかる」

13日 21:09 ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁

「経済データは予想より良い」

「失業率は依然として非常に高く、深い穴にまだいる」

「インフレに下方向の圧力が多くある」

13日 21:30 スラック英首相報道官

「依然として漁業における公平な条件で難航」

「合意に向けて取り組んでいる」

13日 22:43 ブラード米セントルイス連銀総裁

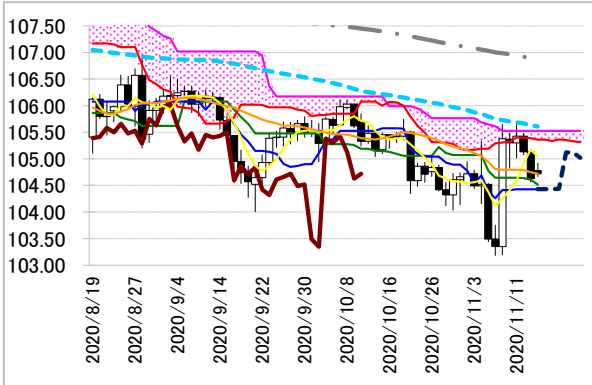
「下振れリスクは依然として大きい」

「米失業率は大幅に改善する余地がある」

「金融政策と財政政策は非常に効果的」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

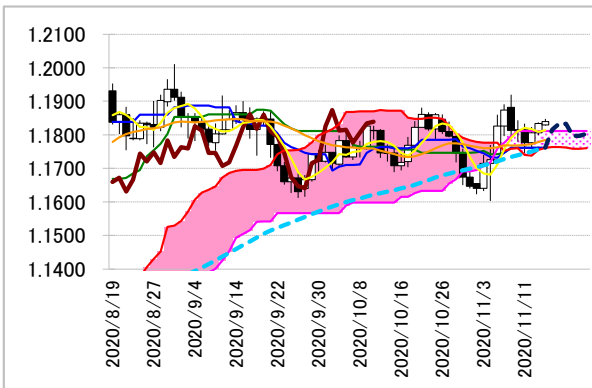


<ドル円=相場が折り返すにしても週後半以降か>

陰線引け。一目均衡表・雲を下回る水準で下値を探る展開が続いている。

すう勢を示す5日移動平均線の低下をとめない、落ち着きどころを探る展開。一目・基準線 104.52 円や、転換線 104.43 円が位置する付近で下落の勢いを弱める可能性はある。しかし、相場が折り返すにしても、転換線の上昇が見込まれる週後半以降となりそうだ。

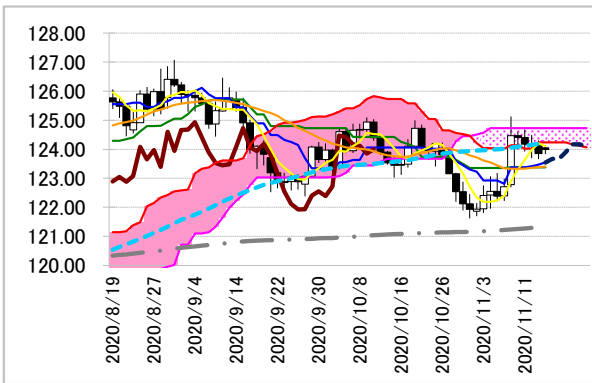
レジスタンス 1	105.16(11/13 高値)
前日終値	104.63
サポート 1	104.14(11/6-11 上昇幅の 61.8%押し)
サポート 2	103.94(11/10-11 上昇幅の下方倍返し)



<ユーロドル=21日線や転換線が支えに>

小陽線引け。一目均衡表・雲の上限 1.1812 ドル付近の底堅さを確認する局面となる。すう勢を示す5日移動平均線に底打ちの兆候はあるものの、相場の推移はまだ不安定か。雲の中へ押し戻される展開もありそう。しかし、上昇中の 21日移動平均線が支えとなるほか、一目・基準線と重なっている転換線が、今後水準を切り上げる場面が想定され、下値を支えそう。深押しを回避し、雲付近の底堅さ維持を見込む。

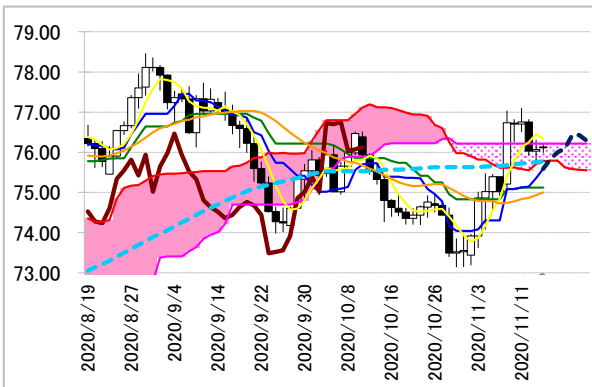
レジスタンス 1	1.1861(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	1.1834
サポート 1	1.1784(21日移動平均線)



<ユーロ円=雲の下限付近で重い動き>

陰線引け。一目均衡表・雲の下限 124.24 円付近で重い動き。124 円台で上昇傾向の 90 日移動平均線を追うように雲の中へ入る場面があっても押し返されやすいだろう。ただ、下押し局面でも 123.55 円前後で上昇傾向の一目・転換線付近では下落圧力が緩和されそう。レンジ下限は一目・基準線付近までにとどまるとみる。

レジスタンス 1	124.50(11/12 高値)
前日終値	123.85
サポート 1	123.38(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円=90日線や上昇継続する転換線がサポート>

極小陽線引け。一目均衡表・雲の上限 76.22 円付近で戻りが鈍い。しかし、雲の中に現在 75.77 円前後で推移する 90 日移動平均線が位置している。同線の支えや、しばらく上昇を続けそうな一目・転換線をサポートとした、雲の上への浮上を予想する。

レジスタンス 1	76.51(11/11 安値)
前日終値	76.07
サポート 1	75.59(日足一目均衡表・転換線)

